



2013年5月16日  
株式会社日立製作所  
執行役社長 中西 宏明  
(コード番号:6501)  
(上場取引所:東・大・名)

## 2015 中期経営計画の概要

株式会社日立製作所(執行役社長:中西 宏明)は、社会イノベーション事業を軸に、「成長の実現と日立の変革」を推進する、2015年度を最終年度とする「2015 中期経営計画」を策定しました。

概要は、以下のとおりです。

### 1. 2015 年度の目標

#### (1)経営目標

	2015 年度目標*1	2012 中期経営計画 3 カ年平均
売上高	10 兆円	9 兆 3,409 億円
EBIT*2(営業利益)率	7%超(7%超)	4.9%(4.6%)
当社株主に帰属する当期純利益	3,500 億円超	2,537 億円
一株当たり当社株主に帰属する当期純利益	70 円超	55 円
製造・サービス等株主資本比率	30%超	2012 年度末 23.2%

\*1 前提為替レート: 90 円/ドル、115 円/ユーロ

\*2 EBIT: 受取利息及び支払利息調整後税引前利益

#### (2)サービス売上高比率・海外売上高比率・人員数

	2015 年度目標*1	2012 年度実績
サービス売上高比率 (システムソリューションの売上を含む)	40%超	30%
海外売上高比率	50%超	41%
国内人員数	200 千人	208 千人
海外人員数	150 千人	118 千人

#### (3)Hitachi Smart Transformation Project を通じたコスト削減の効果・見通し

2011 年度実績	2012 年度実績	2013 年度見通し	2015 年度までの 累計
350 億円	750 億円	1,000 億円	4,000 億円

## 2. 2015 中期経営計画の概要

### (1)2015 中期経営計画 経営のフォーカス

- ①イノベーション :サービス事業を強化しイノベーションを実現
- ②グローバル :社会イノベーション事業をグローバルに提供し成長
- ③トランスフォーメーション:業務のグローバル標準化と変化に迅速に対応する経営基盤の確立

### (2)日立グループ・ビジョンと 2015 中期経営計画

#### ①日立グループ・ビジョン

日立は、社会が直面する課題にイノベーションで応えます。優れたチームワークとグローバル市場での豊富な経験によって、活気あふれる世界をめざします。

#### ②日立グループ・ビジョン実現にむけた 2015 中期経営計画

社会イノベーション事業	
社会・お客様が抱える課題を共に見出し、“One Hitachi”で解決	
プロダクト、サービス、IT(クラウド)を組み合わせたソリューションによりイノベーションを実現	
日立が提供するソリューションの構成要素	
ーサービス	:保守サービスから、運用・アウトソーシング、経営支援までをサポート
ークラウドを活用したサービス基盤	:最先端のITを活用し、収集・蓄積したデータの分析・評価を通じた知識化
ープロダクト	:幅広いシステムノウハウ・技術を活用し、各地域のニーズに応えるプロダクトを提供

### (3)社会イノベーション事業のグローバル展開

#### ①社会イノベーション事業の推進強化

- ・クラウドを活用したサービス事業を通じ、イノベーションを実現
- ークラウドを活用したサービス基盤 :情報の収集・蓄積、アナリティクスを通じて得られるビジネスインテリジェンスを活用し、経営施策の立案を支援
- ーサービス :設備・機器の保守サービスから、アウトソーシング・運用サービス、経営支援サービスへと事業範囲を拡大

#### ②グローバル市場で成長

- ・課題の理解・ソリューション提案力強化
  - ー地域別営業・コンサルティング・マーケティング・エンジニアリング能力の拡充
- ・ソリューション実行力の強化
  - ークラウドを活用した、プロジェクト管理力、プラント建設力、サービス提供力の強化
- ・ソリューションを展開する主な国・地域
  - ー北米、ブラジル、英国・東欧、サブサハラ・南アフリカ、インド・ASEAN、中国、豪州、日本
- ・グローバルに提供する主なソリューション
  - ーエネルギー、交通、水・資源、ビッグデータ(IT)、都市、ヘルスケア、ロジスティクス、金融

③グローバルな成長を牽引する研究開発

- ・社会イノベーション事業のグローバル成長に貢献
  - －海外事業強化を牽引する地域密着 R&D の強化
  - －システム・プロダクトと IT・クラウドを結び、世界最先端の研究開発を展開
  - －グローバルなリソースを活用し、お客様の課題解決に貢献するオープンイノベーション推進

**(4)トランスフォーメーションの推進**

①オペレーション・グローバル人財

- ・グローバルオペレーション:グローバルシフト・事業構造改革
  - －市場の動きにスピーディーに対応し、効率的な経営を実現する SCM<sup>\*3</sup> の再構築  
\*3 SCM: Supply Chain Management
  - －環境変化への迅速な対応を実現するBI(ビジネス・インテリジェンス)経営の加速
  - －事業変革に対応し、金融ノウハウを活用して運転資金とバランスシートを改善
- ・グローバル人財:グローバル人財活用施策の推進
  - －グローバルグレーディング
  - －国内外ローテーションによる最適配置
  - －世界中のリーダーが経営に参画

②Hitachi Smart Transformation Project の推進－業務のグローバル標準確立

- ・2015 中期経営計画:従来施策に加え、事業構造改革へ踏み込む
- ・主要施策
  - －グループ構造の簡素化(役割の明確化による無駄の排除)
  - －グローバルシェアードサービスの拡大
  - －IT・業務システムのグローバル標準化・集約化

③6 グループ体制の構築

- ・市場対応型組織へ改革

対応市場	グループ
製造・公共・都市インフラ・交通	インフラシステム
金融・公共・産業・流通・通信	情報・通信システム
発電・送配電	電力システム
建設・マイニング	建設機械
機械・電子部品	高機能材料
自動車	オートモティブシステム

④事業ポートフォリオの見直し加速

- ・事業拡大と、選択と集中による社会イノベーション事業の強化

⑤火力発電システム事業統合－“日本で強い事業”から“世界で勝てる事業”へ

- ・三菱重工業との合弁を契機に、“世界で勝てる事業”への変革加速
  - －グローバルトップをめざす火力合弁事業の強化推進
  - －火力合弁会社のグローバルな活用

## (5)グローバルメジャープレーヤーへ

グローバルメジャープレーヤーへの変革加速

・社会イノベーション事業で世界に応える日立へ

SOCIAL INNOVATION - IT'S OUR FUTURE

### <将来の見通しに関するリスク情報>

本資料における当社の今後の計画、見通し、戦略等の将来予想に関する記述は、当社が現時点で合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等の結果は見通しと大きく異なることがあります。その要因のうち、主なものは以下の通りです。

- ・ 主要市場(特に日本、アジア、米国およびヨーロッパ)における経済状況および需要の急激な変動
- ・ 為替相場変動(特に円/ドル、円/ユーロ相場)
- ・ 資金調達環境
- ・ 株式相場変動
- ・ 持分法適用関連会社への投資に係る損失
- ・ 価格競争の激化(特にデジタルメディア・民生機器部門)
- ・ 新技術を用いた製品の開発、タイムリーな市場投入、低コスト生産を実現する当社および子会社の能力
- ・ 急速な技術革新
- ・ 長期契約におけるコストの変動および契約の解除
- ・ 原材料・部品の不足および価格の変動
- ・ 製品需給の変動
- ・ 製品需給、為替相場および原材料価格の変動並びに原材料・部品の不足に対応する当社および子会社の能力
- ・ 社会イノベーション事業強化に係る戦略
- ・ 事業構造改善施策の実施
- ・ コスト構造改革施策の実施
- ・ 主要市場・事業拠点(特に日本、アジア、米国およびヨーロッパ)における社会状況および貿易規制等各種規制
- ・ 製品開発等における他社との提携関係
- ・ 自社特許の保護および他社特許の利用の確保
- ・ 当社、子会社または持分法適用関連会社に対する訴訟その他の法的手続
- ・ 製品やサービスに関する欠陥・瑕疵等
- ・ 地震、津波およびその他の自然災害等
- ・ 情報システムへの依存および機密情報の管理
- ・ 退職給付債務に係る見積り
- ・ 人材の確保

以上

---

このニュースリリースにおける将来予測に関する情報は、当社が現時点で合理的であると判断する一定の前提に基づいています。このため、実際の結果と大きく異なったり、予告なしに変更され、検索日と情報が異なる可能性もありますので、あらかじめご了承ください。

---